

「ことば」に着目したまちづくりを推進し、 地域への愛着と関係人口の拡大につなげる

関連するSDGsのゴール



俳句甲子園の様子

「ことば」を軸とした文化芸術による関係人口拡大事業

〇背景

松山市は、近代俳句の祖 正岡子規の生誕地であるほか、夏目漱石著『坊っちゃん』の舞台や、司馬遼太郎著『坂の上の雲』では松山市出身の3人の主人公が描かれるなど、文学にゆかりのあるまちで、これまでも全国から募集した「ことば」※を、市内中心部を走る路面電車や空港に掲示したり、地方自治体による文学賞の先駆的存在である「坊っちゃん文学賞」など、「ことば」に着目したまちづくりや取組を行ってきました。

〇概要

3000年以上前からお湯が湧き続けている道後温泉が多く、多くの県外観光客を招き寄せているのと同じように、俳句や文学などの「ことば」が湧き続け、街にあふれている独自の「ことば」文化を活用し、松山と継続的な関わりを持つ「関係人口」を構築する取組を展開することによって、社会増による人口の増加を目指します。

また、「ことば」や「俳句」の聖地としての観光誘客を図るほか、様々な「ことば」の取組を官民協働で行うことで、市全体で地域愛を醸成し、転出による人口減少の抑制を図るなど、多角的な効果を視野にまちづくりを行います。

※「ことば」…心が温まったり、クスッと笑わせたり、ハッと気づかされるような短い言葉のこと

計画期間
2020年4月1日～2023年3月31日
総事業費
307,285千円(3年度間)
活用する支援
地方創生推進交付金対象事業
数値目標
<ul style="list-style-type: none"> 〇松山市への移住者数 360人(2018年) →390人(2022年) 〇俳句甲子園全国大会のために松山を訪れたOBOGの数 30人(2018年) →36人(2022年) 〇文化イベント参加者数 4,250人(2018年) →4,670人(2022年)



台湾・台北市政府庁舎に設置している俳句ポスト

プロジェクト①

文化的なまちを推進する取組

- ・だから、ことば大募集
⇒10年ぶりに全国から「ことば」※を募集
- ・新しいことば表現発信
⇒アーティストと市民とが共同で作品を制作
- ・松山ブンカ・ラボ
⇒市民と文化とまちをつなぐ活動を実施

プロジェクト②

関係人口を拡大する取組

- ・俳句投稿サイト「俳句ポスト365」
⇒全国どこからでも俳句を投稿できる
- ・俳都松山俳句ポスト
⇒市内のほか県外、海外にも俳句ポストを設置
- ・俳句甲子園全国大会
⇒松山で繰り広げられる17音にかけた高校生たちの熱き戦い

プロジェクト③

民間主導のまちづくり

- ・アーバンデザインセンターを核としたまちづくり
⇒まちづくり専門の見地から松山のまちづくりに対してアドバイス



俳句の短冊と同じ6:1の比率のベンチ



俳都松山
Haiku Capital Matsuyama